

退職・再雇用時の約束を反故に 要求実現にむけ取り組みを強化します

本人希望は聞き入れられず

本日(12月3日)、それぞれの職場に配転

NTT取手営業所で働くみなさん、おはようございます。

料金センタの廃止と116センタ委託化(NTTソルコ)で、水戸・つくば・土浦で働いていた社員は本日、それぞれの職場に配転させられました。

2002年のNTT構造改革で、25%賃金減の地域会社再雇用に応じれば今の職場で働ける」という約束は見事に破られました。

企業は社会的責任を求められ、NTTもCSR活動を推進し個人情報保護法に関して必要なまでに社員に対する責任を求めています。CSR活動とは社員に対しても信頼関係を築く目的でおこなわれるものです。しかし、NTTは、退職・再雇用時の約束を反故にし責任をまったくとりません。NTTの常識は社会の非常識です。

更なるOS化は働く者を苦しめ 利用者のサービスも低下

今回の料金部門、116受付部門のOS化により、社員でやっていた仕事が派遣社員等の非正規雇用者で行われるようになります。社員の培ってきたスキルはほとんど引き継がれず本場に責任を持った仕事は難しくなります。

116センタの受付は、お客様の要望に応じ幅の広い知識とパソコン操作をしながらの対応です。その知識は簡単に習得できるものではありません。NTTは「開通力強化、サービス向上」と言っていますが、サービスが低下することは明らかです。

料金業務も同じです。委託先では116と同じように派遣社員等で行われ画一的な業務のやり方になります。「本社基準に戻す」と催促は郵便のみで、連絡はせず契約解除件数は明らかに増えていきます。

これまで、利用いただいた料金をいかに払ってもらおうかと回収率向上を目指し取り組んできました。そのことが簡単にお客様の電話回線を契約解除せずサービスの維持につながってきたのです。

合理化はそこで働く社員を苦しめ利用者のサービス低下をもたらします。

NTT東日本ー茨城の訓練は 茨城県内で実施すべき

今回、県域会社料金部門から営業部へ異動となる社員と契約社員を対象にNTT東日本中央研修センタで約3週間の研修が実施されます。

「設備の整った環境の充実した研修場所」と説明していますが、茨城県内にも研修施設は整っています。

会社は「赤字で賃上げはできない」と常々言っていますが、東京の研修には一人30万円の費用がかかります。

私たち、N関労(東日本NTT関連合同労働組合茨城支部)は、今回の料金部門の廃止、および116センタ委託化に対し個別具体的な要求を会社側にしてきました。訓練についても「なぜ茨城県内の地域限定社員が県外で長期の訓練を受けなければならないのか。東京都府中市の研修場所は、地域会社の雇用条件が保障されないではないか」と質問してきました。

しかし、会社は今日に至るまで施策に対する会社の考えはおろか、団体交渉の具体的日程も設定しないという不誠実な態度に終始しています。

要求が実現されるまで

私たちの組合はあきらめません

今回の発令で、私たちの組合員である中村洋子さんがみなさんの職場(取手ソリユーション営業担当)に人事発令されました。中村さんは、土浦勤務を要望し、訓練も県内の実施を要求してきましたが、それらの要望は全く聞き入れられませんでした。

「退職再雇用時の約束を守れ」という要求を持ち続け、少しでも働きやすい職場にしていこうという決意でいます。

N関労茨城支部は、要求実現に向け職場での組合腕章の着用など底辺行動を強化して行きますので、みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。